

# J Aグループ鳥取自己改革推進レポート（4月号）

## 1. J A 県域農業サポートセンターの取り組み（J A 鳥取県中央会）

### ① 農業経営診断分析事業にかかる J A への取り組み報告会の開催

農業経営診断分析事業について、J A 役員・担当部課長への取り組み報告会を開催した。（3月18日 J A 鳥取いなば、19日 J A 鳥取中央）

報告会では、農業経営コンサルタントの渡辺喜代司氏により、平成28年度から3年間行った各 J A モデル経営体への経営診断分析結果の報告と今後の支援へのアドバイスがなされた。

出席者からは「取り組みの重要性を再認識した」「対応出来る人材育成が必要だ」などの感想が出された。3年間の取り組みを今後現場での営農指導に活かしていく。



### ② J A 直売所施設衛生・食品衛生研修会を開催

「鳥取県 J A 直売所推進協議会」は、各直売所店舗職員を対象とした「直売所店舗改善研修会」を開催した。（3月7日 J A 鳥取中央・満菜館、8日 J A 鳥取いなば・愛菜館、J A 鳥取西部・アスパルは4月に開催予定。）

研修会は農協流通研究所の望月主幹研究員を講師に招き、現地において店舗改善指導と座学による店舗マネジメント研修、グループワーキング等を行った。

参加者からは「店舗を実際に見ながらの指摘で大変勉強になった」「早速出来るところから改善したい」等の感想が聞かれた。



## 2. 生産コスト削減への挑戦（J A 全農とっとり）

### <肥料>

共同購入による新たな購買方式への転換として取り組みを進めている国産化成肥料の銘柄集約は予約積み上げ目標750トン以上に対し、2 J A で2銘柄734トン（H30年度：735トン）となり昨年同等の結果だった。

労働費削減に向けた肥効調節型肥料（一発肥料）の推進では、1,700トンの目標に対し2,476トン（計画比146%）の普及拡大となった。

### <農薬>

農家の農薬コスト低減を目指す「担い手直送規格」の取扱い強化については、29年度実績500ha（7品目）から大幅に伸長し、30年度は636ha（30年度目標：450ha）へ拡大した。（通常規格と比較して概ね2～3割の価格引き下げとなる）

### 3. 食農教育を応援！！ ～小学生向け補助教材を贈呈～（JA鳥取信連）

平成31年3月22日、鳥取県庁(第2庁舎5階 教育委員室)において、食農教育教材本の贈呈式を開催し、本会 入江理事長より鳥取県教育委員会 山本教育長へ「農業とわたしたちの暮らし」を贈呈した。

この取り組みは、JAバンク食農教育応援事業として、県内の小学校高学年向けに教材本を贈呈しているもの。入江理事長は「平成31年度版については、『これからの農業』のページを新設している。ぜひ教材本を活用していただき、子どもたちが主体的に話し合いながら、農業への理解を広めてほしい。」と述べた。山本教育長は、「自由研究での活用等、幅広く学習ができ、学校現場からの評価も高い。全国の中でも鳥取県では学校給食の『地産地消』に力を入れている。学校給食から鳥取県の豊かな農産物を学び、鳥取県の農業や食の大切さを伝えていきたい。」と感謝の言葉をいただいた。

平成31年度版は、県内132校に5,929冊の贈呈を予定しており、県内各小学校へは、それぞれのJAから直接贈呈することとしている。

#### 4. J A 共済の地域貢献活動の取組み実績（J A 共済連鳥取）

### J A 共済の地域貢献活動の取組み実績

J A 共済では、今年（H31.3）で9年目となる「地域貢献活動（東郷湖班周辺の清掃活動）」を実施いたしました。

今回は、県本部職員と家族をあわせ48名が参加し、2班に分かれ湯梨浜町「ハワイ夢広場」と「あやめ池公園」周辺の空き缶・弁当殻・湖畔への漂着物などを拾いました。

J A 共済が実施する共済事業と地域貢献活動が相互に機能することにより、地域に安全・安心の輪を広げています。そのため、毎年行っている清掃活動は、地域住民が暮らしやすい環境の整備に役立つことを願っています。



J A 共済は、今後も共済事業と地域貢献活動を通じて「地域との絆」を強化し、組合員・地域住民の皆様が住み慣れた地域で健康で安心して暮らせる豊かな環境づくりに貢献していきたいと考えています。

